

第37回東伏見スポーツサイエンス研究会

日時 2016年12月19日(月) 16:30より

場所 早稲田大学79号館(STEP22)302号室

演題

西洋の影響による東アジア武術の変容：
柔道を中心に

金姝延 先生

(韓国・龍仁大学武道学部 教授)

東アジアの武術は、軍事戦術から、身体教育、そしてスポーツ、さらにオリンピックスポーツへと、一連の変化を経ている。グローバル化の名のもとで、東アジアの武術は絶えず変化し世界的に広がるスポーツにまで突き進んだ。東アジアの武術は西欧の影響を受け変容している。特に柔道はイギリスとアメリカの影響を受けている。明治維新後のイギリスの影響を受け、もともと戦場での技術としての柔術が身体教育としての柔道になった。そして第二次世界大戦後に、柔道はアメリカの力によって、「スポーツ柔道(Judo)」へと変わった。もちろん多くの研究は、(東アジアの武術に起きた)変化を嘉納治五郎や他の日本人の努力に求めるが、実際にはこれらの変化は、イギリスとアメリカの影響の方がより大きい。西欧がもたらした影響は、現在「武術スポーツ」あるいは「スポーツ武術」と呼ばれている東アジアの武術のアイデンティティを認識する際に痛みをもたらしている。



早稲田大学 スポーツ科学学術院
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

世話人: 正木宏明・霜島広樹
早稲田大学 スポーツ科学学術院
E-mail: h-simozima@aoni.waseda.jp